

第一章 昭和二年～十二年

(一九二七～一九三七)

K・プリングスハイムを迎えて

大正時代の東京音楽学校は、クローン指導のもとで、本格的なコンサート媒体としての大きな役割を果たした。次いで大正十五年に雇い入れられたラウトルupp (Charles Laurup 一八九四～?) 国籍デンマーク、昭和六年まで在職) は、古典の名曲を教材に十分な基礎訓練に力を入れ、昭和初期のオーケストラを一段と研き上げた。昭和天皇の御即位大礼奉祝演奏および創立五十周年 (音楽取調掛設置年から起算) 記念演奏を好機として手がけた管弦楽付独唱・合唱の大曲は注目に値する。

東京音楽学校の定期演奏会は、昭和四年の秋以降会場を奏楽室から日比谷公会堂に移し、ラウトルuppに代ってクラウス・プリングスハイム (一八八三～一九七二、国籍ドイツ、昭和六年九月から同十二年八月まで在職) を指揮と作曲の教師を迎えた。東京音楽学校の歴史上最も激しく輝いた時代のはじまりである。平井康三郎 (本名保喜) の言葉をかりれば、彼は「恰も慧星の如く天の一角から現れ」、当時の東京音楽学校にとっては全く新しい音の世界とも言えるヨーロッパ近代音楽を取り入れ、音楽界を沸かせる演奏を展開した。プリングスハイムが話題を放ったそれらの曲目は次のようである。

マーラー…交響曲第二番 (昭和八年二月十八日)、第三番 (昭和十年二月十六日)、第五番 (昭和七年二月二十七日)、第六番 (昭和九年二月十七日)、第七番 (昭和十二年二月二十七日)。マーラーの弟子であったプリングスハイムは、当初マーラーの交響曲全曲を、東京音楽学校

で初演するつもりであったが、結局以上の五曲を本邦初演した。

ブルックナー…交響曲第七番 (昭和八年十月二十一日)、第九番 (昭和十一年二月十五日) いずれも本邦初演。

ストラヴィンスキー…(詩篇交響曲) (昭和七年六月九日) 本邦初演。

ワーグナー…「ローエングリン」前奏曲と第一幕 (昭和七年十二月十八日)。

R・シュトラウス…シュトラウス誕生七十年記念演奏、交響詩「ツァラ

ツストラ」、十六声部無伴奏混声合唱、「アルプス交響曲」(昭和九年十月三十一日) 三曲とも本邦初演。

ベルリオーズ…「ファウストの劫罰」(昭和十一年六月二十日) 本邦初演。など。

だがこれらの曲は、当時の東京音楽学校の力をはるかに越える難曲ばかりで、演奏会ごとの批評も賛否両論に分れ、きびしい批判の声が紙上に賑わせた (本文参照)。

この華やかな初演曲目の中に混じって、ヘンデルの「グロリア・パトリ」(昭和七年六月九日) 世界初演は音楽界に異彩を放った。この作品は一七七頁の解説で述べられているように、徳川頼貞侯が創設した南葵音楽図書館所蔵のカミングス・コレクションより発見されたものであった。その未公開楽譜の原本は発見者の辻莊一によって校訂され、総譜を同図書館が出版した。東京音楽学校の演奏はこの楽譜にもとづくもので、世界のヘンデル研究に大きな足跡を記した。

プリングスハイム在任中の六年間は東京音楽学校の機構上にも大きな変革があった時代である。昭和六年四月、本科に作曲部誕生、またこの年に初めて管楽器専攻の学生が入学した。同八年六月、音楽の早期教育を目的として上野児童音楽学園を設置、同十一年四月には邦楽科が設置された。特に上野児童音楽学園は設置目的をよく發揮し、昭和十九年、戦争激化で自然消滅するまで、多くの豆音楽家を世に送り出した。東京音楽学校との協演や卒業演奏のプログラムが彼らの進歩振りを物語っている。この中においてプリングスハイムはオーケストラおよび作曲家・

指揮者の育成に教育者として大きな業績を残した。なお定期演奏会の解説にオーケストラメンバーの名を記すことをはじめたのは彼である。

昭和十一年十一月二十五日、日本はヒットラー政権下のドイツと日独防共協定を結んだ。東京音楽学校も国政に準ずることが余儀なくされ、反ナチであったプリングスハイムは同校を辞することとなった。最後の年、昭和十二年六月十九日、彼は自分の心境を託すかのようにバツハの〈マタイ受難曲〉本邦初演を指揮した。そして七月八日、告別演奏の〈第九交響曲〉(ベートーヴェン)を指揮、九月、日本を離れた。タイより文化省最高顧問として招聘されたと伝えられている。⁽³⁾

こぼればなし

その一 上流社会の社交場的であった定期演奏会に比べ、奏楽堂で行われた学友会の演奏会はほんとうの愛好家が聴きに来てくれた。回数券のように入場券は全部売り切れ、演奏するわれわれは見栄も気取りもなく純粹に自分の音楽を聴いてもらうことが出来た。

その二 皇室の方々を演奏会に招待するということは、社会的に弱い東京音楽学校を認識させる上で最も効果があったようである。これは乗杉校長の発案で、学校のペンキがはげたり、校庭の手入れが必要になると宮様を招待する。そうするとそのあとすぐ学校はきれいになった。

水谷達夫氏談(昭和八年器楽部「ピアノ」卒業、同十年研究科修了、昭和十五年〜五十四年在職、現東京芸術大学名誉教授)

(1) 『日本プリングスハイム協会会報』第一号、一九八四年一月一日。

(2) 徳川頼貞(一八九二〜一九五四) 侯爵。徳川御三家の一つ、紀州の徳川家出身。音楽に造詣深く、大正七年七月東京の麻布飯倉に南奏音楽図書館を設立。この図書館は同十二年の関東大震災で閉館をやむなくされるまで、日本の唯一の音楽専門図書館として音楽界に貢献した。一九一七年ロンドンで競売にかかった世界的にも価値のあるカミングス(イギリスの高名な音楽史家)の音楽コレクションを、アメリカのライブラー・オブ・コングレスとせり合ひ、最後に折半して徳川氏と半々に買いとられることになった話は有名である。以後このコレクションは南奏音楽図書館の主要な蔵書となっていた。昭和三年九月には、南奏楽堂のバイプオルガンが徳川氏より東京音楽学校に寄贈され奏楽堂に据えられた。

(3) 日本をあとにしたプリングスハイムは、日本とタイ合同の音楽学校設立準備

に加わったがナチの圧迫によって断念、タイ滞在二年で日本にもどった。だが一九四四年敵性外国人として拘禁され、終戦によって釈放されたのちアメリカに渡った。四年後三度目の来日、一九五一年から二十年間武蔵野音楽大学で教鞭をとった。一九五九年勲四等瑞宝章受章。東京で没す。

昭和二年三月二十五日 卒業式

昭和二年三月二十五日(金曜日)午後一時三十分開始

卒業證書授與式順序

東京音楽学校

第四臨時教員養成所

- 一、卒業證書授與
- 二、校長式辭
- 三、文部大臣告辭
- 四、卒業生總代謝辭
- 五、賞品授與
- 六、卒業演奏

演奏曲目

- 一、ピアノ獨奏……………本科器楽部卒業生 木村 ゆき
半音階的幻想曲……………バツハ作曲
- 二、ソプラノ獨唱……………本科聲楽部卒業生 西山 晴江
神事劇「天地創造」中のガブリエルの抒情調…ハイドン作曲
- 三、ピアノ獨奏……………本科器楽部卒業生 山越 八重子
ハ短調競奏曲……………モツアルト作曲
(ライネッケ作カデンツ・第一樂章)